

# 1.徳島県美馬市について



▲ 重要伝統的建造物群保存地区「うだつの町並み」



▲ 水質日本一の「穴吹川」



▲ 西日本第二の高峰「剣山」



▲ 美馬地区の寺院群「寺町」

人口 26,379人 (令和6年9月末時点)

うち65歳以上 10,733人 (40.7%)

うち75歳以上 5,835人 (22.1%)

移動を自家用車に頼る生活環境や糖質の多い食生活等が影響しメタボやメタボ予備軍が多く出現

- ・HbA1c6.5以上 7.3% (県内ワースト2位) ※
- ・メタボ 22.6% (県内ワースト4位) ※



※H30年度特定健診問診票の分析結果



## 2.SIB導入検討の経緯、検討過程における課題と対応策

### (1)導入の背景

#### ①徳島ヴォルティスのホームタウン



- 平成17年度からホームタウンに（県内6市4町を中心とした県全域がホームタウン）
- 年1試合ホームタウンデーイベントを開催

#### ②大塚製薬徳島美馬工場の立地



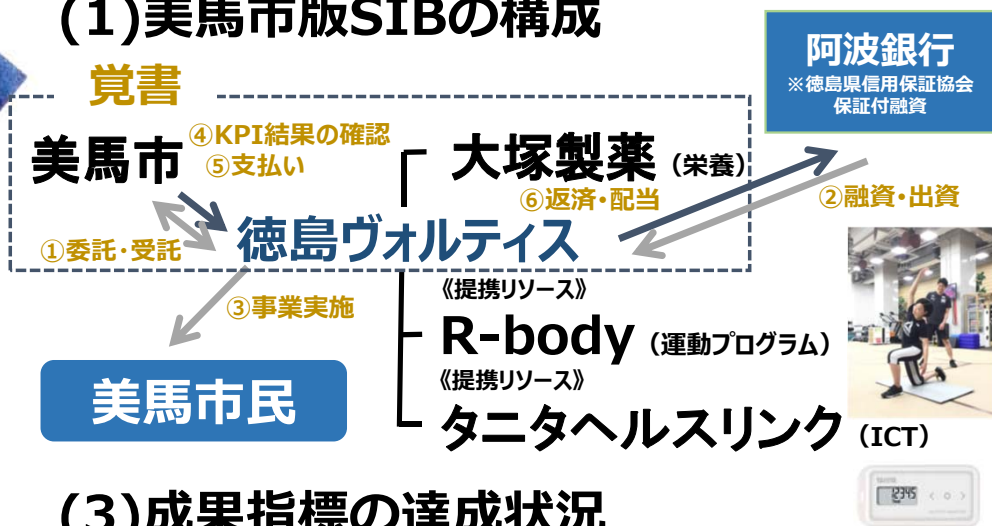
- 同社国内6番目の医薬品工場  
日米欧3極のGMPに適合し、柔軟かつ持続的に医薬品を生産できる工場として、令和2年9月10日に操業開始

### (2)導入の経緯、検討過程における課題と対応策

時 期	内 容
H30年4月	徳島ヴォルティスと大塚製薬から市長（当時）に <b>SIB提案</b>
5～7月	市と徳島ヴォルティス、大塚製薬との間で断続的に協議 ⇒ <b>成果指標や、成果に連動して支払う基準、額についてそれぞれが根拠を持ち合わせておらず協議が行き詰まった</b>
8月	<b>経済産業省に支援を要請</b> ⇒同省の平成30年度健康寿命延伸産業創出推進事業を受託している <b>(株)日本総合研究所の支援</b> を受けることに
9～11月	日本総研の伴走支援のもと、3者で、成果指標や、成果に連動して支払う基準、額などSIBの骨格について協議
11月21日	<u>美馬市と大塚製薬との連携協定、及び徳島ヴォルティスを含む3者による覚書を締結</u>
12月～ H31年1月	日本総研の伴走支援のもと、3者協議を重ね、SIBの詳細な条件を詰める 例) 達成率に対応する支払い率の設定
R1年度～	<b>ヴォルティスコンディショニングプログラム開始</b>

# 3.事業効果等

## (1)美馬市版SIBの構成



## (2)事業実績 (R1~R5の5年間)

- ・ 実施回数 **16クール** / 予定18クール
- ・ 延べ参加者数 **1,279名** / 目標1,800名 ※  
※新型コロナで中止した2クール分を除くと1,600名
- ・ 実参加者数 **710名**
- ・ 参加者の参加回数  
1回 : 490名, 2回 : 108名,  
3回以上 : 112名 (最高 : 13回)



## (3)成果指標の達成状況

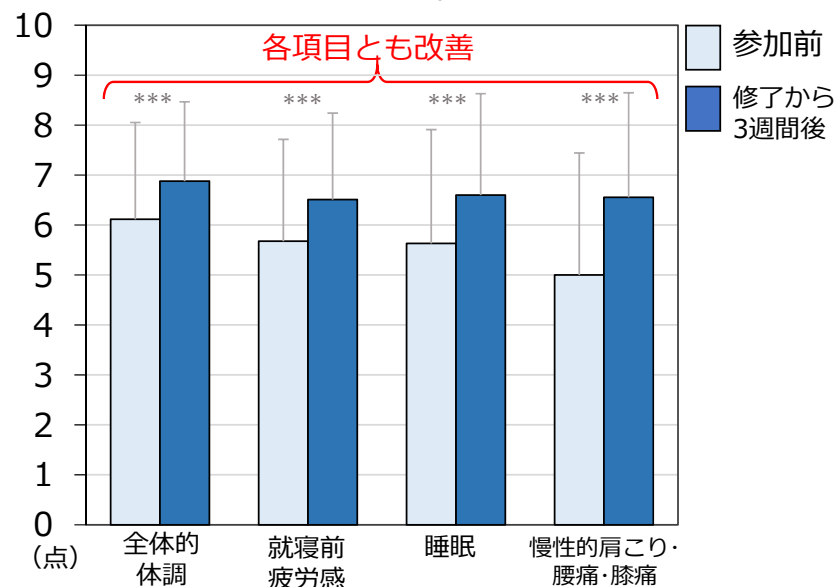
成果指標	目標値	対象者	達成状況	参考
運動習慣 (1日30分以上、週2回以上) のない者のうち運動習慣を持つようになった者の割合	60%	20歳以上 (参加者全員)	運動習慣のない参加者352名中、228名が運動を習慣化 ( <b>64.8%</b> )	全参加者 (710名) 中、有効回答者は585名。このうち、参加時点で運動習慣のない参加者は352名 (60.2%)
基本チェックリストにおける運動機能の項目5項目中、3項目以上該当する者のうち2項目以下に改善した者の割合	70%	65歳以上の参加者	3項目以上該当者53名中、45名が2項目以下に改善 ( <b>84.9%</b> )	65歳以上の参加者 (270名) 中、有効回答者は202名。このうち、参加時点で3項目以上該当者は53名 (26.2%)



## 3.事業効果等

### (4)参加前後のアンケート結果 (一部)

＜徳島ヴォルティス（株）から提供＞



(注1) 「とても良い」を10点、「とても悪い」を0点とし、10段階で評価してもらい、有効回答数中の回答割合を参加前後で比較

(注2) 平均値±標準偏差, 有効回答数: 429-605, \*\*\* $p < 0.001$  (Wilcoxon符合順位検定)

自由記述でも、腰痛が改善して草抜き作業が苦にならなくなった、姿勢も改善傾向など肯定的な記述が多かった。

### (5)事業総括に向けて

- ・ (株)日本政策投資銀行及び(株)日本経済研究所と連携協定を締結し、本年度、改めて、アンケート調査や関係者へのヒアリングなどを通じた事業総括に取り組んでいる。(令和6年度末に結果を公表予定)
- ・ 運動習慣の継続状況などを把握することで、成果連動支払額の根拠となった市の財政負担軽減額の「見込み」に対する「実績」について検証予定。
- ・ アンケート調査の単純集計では、プログラム終了後も運動習慣を継続しているのは回答者の半数で、さらに、運動習慣継続者のうち約半数がコンディショニングプログラムを継続。
- ・ コンディショニングプログラム終了後に運動継続している理由は、「教わったトレーニングが自宅や身近な場所でもできるから」が最も多く、プログラムがニーズに合致していたことを示唆。  
⇒SIBによる受託者の創意工夫が奏功した可能性も